


2019年度国立天文台研究集会開催報告書

2020年 2月 18日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	うすだ さとう くみこ 白田-佐藤 功美子	
	所属・職	国立天文台天文情報センター・特任専門員	
研究集会名	国際天文学連合シンポジウム#358: Astronomy for Equity, Diversity, and Inclusion - A Roadmap to Action within the Framework for IAU Centennial Anniversary		
開催期間	2019年 11月 12日 ～ 2019年 11月 15日		
開催場所	国立天文台三鷹 大セミナー室、中央棟ロビー		
参加人数・国数 (国数は所属機関の国数)	124名・31カ国		
発表資料等の 情報	https://iau-oao.nao.ac.jp/iaus358/ 研究集会のプログラムや発表資料等をまとめたHPがあればURLを記載してください。提出後に作成された場合もご連絡ください。国立天文台研究交流委員会HPにリンクを張らせていただきます。HPではなく、論文や冊子を作成している場合は、可能であれば一部ご提供ください。(論文の場合はDOIの情報でも可)		
研究集会の概要	<p>本シンポジウムでは、国際天文学連合（IAU）創立100周年に合わせ、天文学における男女共同参画、少数者や障害者の参画といった、ダイバーシティとインクルージョンの推進がテーマであった。性別や出身地、人種や国籍、使用言語、障害の有無など多種多様な人材のことをダイバーシティ、人材それぞれの個性を組織や社会に受け入れ生かすことをインクルージョンと言うが、このようなテーマでIAUシンポジウムが開催されたのは今回が初めてである。</p> <p>IAUが策定した「2020-2030年戦略計画」に、「目標2: IAUはすべての国で、天文学という学問分野のインクルーシブな発展を促進する」とあるように、IAUはインクルージョンをその目標の一つに掲げている。そのためか、本シンポジウムに対する世界各国からの反響が大きく、参加申込数が会場の定員（約120名）を大幅に上回る約240名に達し、キャンセル待ちリストに名を連ねたままになった方が多数いた。参加者124名の中には、IAU現会長、IAU事務局やIAU100周年事業関係者も含まれる。</p> <p>基調講演4件、口頭講演57件、ポスター講演37件に加え、昼食時などに行った有志による議論4件や、天文学分野におけるインクルージョンを推進するための行動を公約として記述した「三鷹決議（Mitaka Resolutions）」に関する特別セッション2件が行われた。口頭講演の多くは、パネルディスカッションの形式で行い、質疑応答・議論の時間を十分に設けた。</p> <p>シンポジウムにあわせて、IAU100周年事業の一つである触れる展示「輝け！地上の星たち☆（Inspiring Stars）」をサテライトイベントとして中央棟ロビーで開催した。日本を含む8カ国の参加者がそれぞれ開発した、視覚の有無を問わず触って理解できる模型や、データ音声化のデモを披露した。シンポジウム参加者だけでなく、国立天文台職員も立ち寄り、この展示を楽しんだ。</p>		

<p>研究集会の成果</p>	<p>最大の成果は、インクルージョンへの意識・関心が高い世界各国の研究者・天文学普及者が一堂に会し、対面で議論することにより、お互いを知りネットワーク作りが進んだことであろう。アフリカや南米など日本から遠距離の地域からも多数参加があり、参加者の所属機関31カ国の地理的分布のバランスが良く、この点のみからもダイバーシティ度が高いシンポジウムと言える。また、参加者には、手話通訳士とともに来日した聴覚障害者や、同伴者や介助犬と参加した視覚障害者も含まれる。</p> <p>Jarita Holbrook氏（南アフリカ）、望月優子氏（日本）、Santiago Vargas Dominguez氏（コロンビア）、Jeff Cooke氏（オーストラリア）に基調講演いただいたが、大きくわけて男女共同参画、障害者の参加、地域の文化や少数者を含んだ天文学、の分野から、地理的分布やジェンダーバランスを考慮してSOC（Scientific Organizing Committee）が講演を依頼した4名である。一般講演の内容も多岐にわたっただけでなく、様々な地域からの参加者が座長を務めた。視覚障害を持つ参加者が座長を務めたセッションもあった。</p> <p>LOC（Local Organizing Committee）は、インクルーシブな環境整備に尽力した。三鷹キャンパスの触地図や点字付きの名札のほか、参加者が必要に応じて使える静音室や礼拝室、授乳室などを用意した。会議中は、音声を文字で表記するためのパソコン要約筆記を提供したほか、身体・経済的な事情で来場できなかった参加者と会場をインターネットでつないだ遠隔講演を多数実施した。ポスター会場では、車椅子ユーザーが移動しやすい十分なスペースを確保したほか、視覚障害者等がデジタルコンテンツにアクセスできる端末を用意した。</p> <p>更に、参加者それぞれが好みの代名詞（PGPs: Preferred Gender Pronouns）を提示できる、加えて色を使ってコミュニケーションの好みを提示できるという選択肢（緑は「話しかけて」、赤は「話しかけないで」、黄色は「知り合いのみ話しかけて」）をポスターで紹介した。ほとんどの参加者が、ポスターを読んだ上でPGPやコミュニケーションのラベルを各自名札に貼り、お互いの好みを尊重しあった。これらの取組については、英語と日本語で国立天文台トピックスとして報告済みである（日本語ページは https://www.nao.ac.jp/news/events/2019/20191225-iau-sympo.html）。今回実施した環境整備については、参加者から大変好評を得たが、将来の研究集会でも実施されることを願っている。</p>
<p>その他参考となる事項（希望事項も含む）</p>	<p>インクルージョンをテーマとした研究会では、情報保障（障害者が情報にアクセスできるためのサポート）が重要となる。いただいた研究集会経費を、パソコン要約筆記の情報保障費にあてられたのが、大変ありがたかった。</p> <p>本シンポジウムは、IAU国際普及室(OAO)・広報室を含む天文情報センター、情報セキュリティ室、国際連携室の有志が中心となって準備をすすめたが、他の部署、特に事務部から多大なる協力を得た。総務課から音声システムに詳しい方を配置していただき、ほぼ全日にわたり会場のサポートを受けた。2日目の朝、台内ネットワークトラブルに見舞われたが、無事に複数の遠隔講演を実現できたのは、その方のおかげである。施設課の方々とは事前に打ち合わせを行い、礼拝室等の用意や、トイレに点字ラベルや触図を貼ることについて、ご快諾いただいた。礼拝室は使用者に好評だった。研究推進課の方々には、ビザの手配にご協力いただいたほか、盲導犬と一緒にコスモス会館に宿泊する可能性のあった参加者と、事前にメールにて細やかなやりとりを行っていただいた。また、開催期間中に触れる展示Inspiring Stars) のためロビーを使用することについて、SOC長である渡部潤一副台長を通じて申請し、企画会議で承認いただいた。研究集会経費に加え、直前や当日に支援して下さった方々に、深くお礼を申し上げたい。</p>